

総合型地域スポーツクラブにおけるソーシャル・キャピタルに関する研究

A Study on Social Capital of Comprehensive Community Sports Clubs

スポーツビジネス研究領域

5007A061-8 宮宗大輔

研究指導教員： 木村和彦教授

【序論】

文部科学省(以下、「文科省」と略す)によって、2000 年度に公表された「スポーツ振興基本計画」は、「総合型地域スポーツクラブ(以下、「総合型クラブ」と略す)の全国展開」を掲げ、わが国のスポーツ人口拡大目標(10 年間で、成人の週 1 回以上の実施率を 50%以上)に不可欠な政策目標とした。

文科省によると、2008 年 7 月の時点で、2768 クラブが育成、もしくは準備中であるとし、総合型クラブの育成において量的な整備がされつつある。しかし、「たしかに、多くの総合型クラブが育成され、身近なスポーツ環境が整備されることは望ましいことである。しかし、総合型クラブ育成においては、量的な整備とともに質的な問題も問わなければならない」(行實,2007)という指摘のように、総合型クラブの育成においては、質・量の両側面からの整備・育成が必要である。

中西(2005)は、総合型クラブ育成の社会的機能に着目し、「ソーシャル・キャピタル(以下、「SC」と略す)」概念を援用することで、総合型クラブのコミュニティ形成機能の可能性について説明し、総合型クラブの質的成果として捉えることの必要性を示唆している。

総合型クラブの質的成果として、SC 概念を援用する研究は存在するが、従来型の小規模で単一のクラブ(以下、「単一型クラブ」と略す)との比較による分析は行われていない。また、行實・中西(2007)では、クラブ運営参加者は、橋渡し型 SC が高い傾向にあるとしているが、クラブへの参加はより多岐にわたり、多様な参加が考えられ、多様なクラブへの関与と SC の関係を分析する必要がある。

【研究目的】

以上の点を踏まえ、本研究は、①総合型クラブと単一型クラブの SC の比較から、その役割を明確にする

こと、②クラブへの関与形態による SC を検証すること、③総合型クラブと単一型クラブの結合型 SC と橋渡し型 SC の醸成・蓄積を比較し、その役割を検討すること、を目的とした。

【研究方法】

本研究は、都内にある総合型クラブ 3 クラブと、総合型クラブと同一地域で活動する単一型クラブで活動するクラブ会員を調査対象とした。調査期間は、2008 年 12 月初旬から 2009 年 1 月初旬までの約 1 ヶ月間である。調査方法は、郵送法と留置法による質問紙調査を用いて行った。なお、総合型クラブは、郵送法と留置法を併用し、郵送法の場合は、クラブマネージャーに配布・回収・返送を依頼する形式で行った。また、単一型クラブはすべて留置法で行った。回収数は 389 部で、総合型クラブが 277 部(回収率 92.3%)、単一型クラブが 121 部であった。

質問項目は、先行研究の検討から抽出した、個人属性の 4 項目、信頼の 4 項目、近隣でのつきあいの 2 項目、社会的な交流の 5 項目、社会参加の 3 項目、スポーツ活動の 6 項目、の計 24 項目であった。

【結果と考察】

本研究では、総合型クラブと単一型クラブでは、「信頼」「近隣でのつきあい」「社会的な交流」「社会参加」において、統計的に有意な差が見られ、総合型クラブが高い値を示した。さらに、「信頼」「近隣でのつきあい」「社会的な交流」「社会参加」の合成変数で「SC 指数」を算出し、その比較を行った結果、総合型クラブが高い値を示し、統計的に有意な差を示した。同一地域での比較の結果においても同様の結果となり、総合型クラブは単一型クラブよりも SC を醸成・蓄積していることが明らかになった。

次に、クラブへの参加形態の有無による比較を行

った結果,「クラブ運営」「会議・会合」「イベント」「コミュニケーションの場」への参加者は,非参加者と比べ,「SC 指数」が高い傾向があり,統計的に有意な差が見られた。

そして,総合型クラブと単一型クラブの橋渡し型 SC と結合型 SC の比較の結果,総合型クラブは,橋渡し型 SC・結合型 SC の2つの SC において,高い値を示し,統計的に有意な差を示した。

以上の結果から,総合型クラブは,地域社会の SC を醸成・蓄積する場としての機能があることが考えられる。また,同一地域においても同様の結果が認められたことから,総合型クラブは,「信頼」「つきあい」「社会参加」を高める機能があると考えられる。

クラブへの関与形態による比較の結果から,クラブへの関与は,運営への参加のみ SC を醸成・蓄積するのではなく,多様な形での参加が,SC を醸成・蓄積していると考えられる。

総合型クラブと単一型クラブの橋渡し型 SC と結合型 SC の比較の結果から,総合型クラブは橋渡し型 SC と結合型 SC を持つことが確認され,地域社会の中でのつながりを強化し,ネットワークや社会参加などを促進する可能性が示唆される。

【結論】

本研究から,①総合型クラブは単一型クラブより SC を醸成・蓄積している,②クラブへ関与している者は,そうでない者より SC が高い,③総合型クラブは,単一型クラブより結合型 SC と橋渡し型 SC を醸成・蓄積している,という3点が明らかとなった。今まで,理念的に語られることの多かった総合型クラブの質的成果について,定量的に明示することができた。

総合型クラブの地域社会での役割は,ネットワークやつながりを強化し,信頼や社会参加を促す機能が期待される。今後,地域で自立した総合型クラブは,地域社会を巻き込むネットワークのハブの役割が期待される。そのためにも,総合型クラブへの参与形式を多様化するような工夫をすべきであろう。

また,総合型クラブでは,クラブの非運営者であっても,多様な形式で参加する者は SC を醸成・蓄積している可能性があることから,多様な参加者を受け入れて活動し,工夫する必要があると考える。

今後,総合型クラブは,地域住民を何らかの方法で巻き込み,活動していくことが望ましい。そうした総合型クラブの質的成果を測る指標として,SC 概念を援用は有意義なものとなると考える。